

平成29年度 第4回国際委員会議事録

日時：平成30年1月18日(木)

場所：ポートピアホテル神戸 南館 5階 「556.558」会議室

出席：(担当理事)中村 雅也

(委員長)松山 幸弘

(委員)小澤 浩司、波呂 浩孝、加藤 真介、  
酒井 大輔、川口 善治、石井 賢、千葉 一裕  
JSSR2018事務局(寺井 秀富、高橋 真治)

欠席：種市 洋、宮腰 尚久(敬称略)

1. 担当理事から委員会への報告事項、検討依頼事項
  - 1) トラベリングフェローの選抜について  
21名の応募があり、評価票に基づき12名が選出された。11位に2名が同点であった為、過去の慣例に従い年齢順で勝見敬一に決定した。
  - 2) トラベリングフェロー選抜時の提出書類について以下を提出する方向の改定案が川口委員の提案に基づき決定した。
    - (ア)英文原著(筆頭著者編、共同著者編)
    - (イ)英文総説(筆頭著者編、共同著者編)
    - (ウ)英文著書(筆頭著者編、共同著者編)
    - (エ)英文症例報告(筆頭著者編、共同著者編)
    - (オ)和文原著(筆頭著者編、共同著者編)
    - (カ)和文総説(筆頭著者編、共同著者編)
    - (キ)和文症例報告(筆頭著者編、共同著者編)
    - (ク)海外学会発表(学会名、発表年、シンポジウム、口演またはポスター)(筆頭著者編、共同著者編)
    - (ケ)受賞(筆頭著者編、共同著者編)
    - (コ)日本脊椎脊髄病学会学術集会での発表
      1. (発表年、シンポジウム、口演またはポスター)(筆頭著者編、共同著者編)ただし corresponding author は筆頭著者に含む。
  - 3) JSSR - 台湾トラベリングフェローの受け入れ報告

2017年12月11日から獨協医大、18日から慶應大学を訪問し無事に帰国された。受け入れ施設より報告書を頂く予定。

- 4) Spine week 2020 への対応について  
理事会で審議を行い、シンポジウム一つを組む（no charge が条件）方向で承認された。対応は中村理事と Robert Gunzburg の間で執り行う。
- 5) Spine World Summit 2018 への対応について  
田口理事長、中村理事、松山委員長、川口委員が出席
- 6) AO Global Spine Congress 2018 への対応について  
松山委員長、波呂委員、川口委員、石井委員が出席  
（演者の学会登録料とホテル2泊分が主催者負担）
2. JSSR2018 における国際委員会招聘演者の食事会について  
海外演者 5 名 + 同伴者 3 名に対して国際委員会主催で食事会を開催予定。開催場所について学会事務局と中村理事、松山委員長で決定予定。  
昨年は NASS 事務局も招待したが今年は？
3. 2018JSSR English Session の活性化に向けた対応について  
2018JSSR 事務局より口演 24 演題、ポスター 12 演題が English Session に応募があり、口演演題のうち 4 名が日本に留学中の外国人、14 名が海外演者（インドネシア、バングラデッシュ、ネパール（2）、香港（2）、マレーシア（3）、インド、韓国、台湾、タイ、パキスタン）より応募があったことが報告された。招聘演者の施設からお願いして演題を出して頂いた海外演者についての学会登録費用に関しては主催校の裁量に任せる、EPA は評価票に基づき上位 5 名（外国人に限る）に 500USD を国際委員会より授与することが確認された。  
演題募集に際し、主催校より招聘演者施設への働きかけならびに酒井委員よりポスターを作成し、APSS の email list を利用し拡散した。  
小澤委員より English Session 活性化に向け EPA 評価者を増加させ、JSSR 2018 から QUO カードなどのインセンティブをつける提案がなされ、主催校より承認を得た。また、2014 年から 2016 までの JSSR アジアトラベリングフェロー 36 名に対して EPA 評価者として依頼状を主催校より送付することが確認された。
4. Spine Across the Sea 2018 準備状況報告

波呂委員より SAS2018 の準備状況が堅調に進んでいることが伝えられた。日程は2018年7月29日～8月2日、カウワイ島マリオットで開催される。

5. JSSR 国際化推進に向けての継続審議

ISSLS2019 京都におけるサテライトシンポジウムなど JSSR として協力できることについて今後協議していく（千葉委員）

NASS、APSS などと協力体制を強化し、学術集会で Global Symposium を組むなどの試みを今後も討議していく。

6. APSS との協力体制構築に向けて（松山委員長）

APSS2018 Taiwan へ松山委員長始め 15 名程度 JSSR から演題を出すことが確認された。APSS Basic Course Committee へ JSSR より委員派遣の要請があり、酒井委員が委員長より指名され、第一回の web 会議に出席した。その結果、日本でも Basic course を学術集会に合わせて開催する可能性について承認を得た。

7. SSA との協力体制構築に向けて（酒井委員）

Spine Society of Australia 会長とメールベースの連絡を取り合い、アライアンス提携、代表者の相互招聘、会員の参加費割引、フェロシップについて協議を進めることが承認された。

3. 委員会から理事会への審議依頼事項

JSSR 会員への各種国際的な情報をメール一斉配信(Bcc)について継続審議頂くことが確認された。

JSSR へ公式に参加オファーがあった団体への出席時の旅費について JSSR より拠出する取り決めにつき理事会で審議頂くこと。

ISSLS2019、APSS、SSA との相互協力体制構築推進の承認。

5. 次回委員会日程については未定、会場は追って事務局より連絡することを確認した。次回開催は4月12日 AM: 7:00 に予定した。

以上